

授業科目名： 西洋歴史論演習(古代・中世の政治)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：南雲泰輔 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 西洋史学専門演習（古代・中世の政治）では、西洋古代史及び西洋中世史における政治とそれに関連する事項を扱った欧米学界における優れた研究成果の摂取を通じて、関連学説の検討を踏まえた問題設定及び課題を解決するための史料批判を的確に行う力を涵養し、また、史資料の読解力を向上させるとともに、日本語による表現力をも彫琢することを目指す。			
授業の概要 本授業では、西洋古代と西洋中世にまたがる新たな時代区分として、現在の学界において広く認知されるようになった「古代末期（Late Antiquity）」について、その政治の展開を、最新の成果に基づき政治的・軍事的観点から解説した定評ある概説書、ヒュー・エルトン著『古代末期におけるローマ帝国：政治的・軍事的歴史』（Hugh Elton, <i>The Roman Empire in Late Antiquity: A Political and Military History</i> , Cambridge: Cambridge University Press, 2018.）を取り上げ、注記も含めて精読するとともに、その内容について出席者全員で検討を行なう。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：「序章」の精読及び内容の検討 第3回：「第1章 3世紀後半、260-313年」の精読及び内容の検討 第4回：「第2章 4世紀前半、313-363年」の精読及び内容の検討 第5回：「第3章 軍事的状況、260-395年」の精読及び内容の検討 第6回：「第4章 4世紀後半、363-395年」の精読及び内容の検討 第7回：「第5章 5世紀前半、395-455年」の精読及び内容の検討 第8回：「第6章 5世紀後半、455-493年」の精読及び内容の検討 第9回：「第7章 軍事的状況、395-493年」の精読及び内容の検討 第10回：「第8章 5世紀後半と6世紀前半、491-565年」の精読及び内容の検討 第11回：「第9章 6世紀後半、565-610年」の精読及び内容の検討 第12回：「第10章 軍事的状況、491-610年」の精読及び内容の検討			

第13回：「第11章 ヘラクレイオス帝治世、610-641年」の精読及び内容の検討

第14回：「結論」の精読及び内容の検討

第15回：全体の総括

定期試験（レポート）

テキスト

Hugh Elton, *The Roman Empire in Late Antiquity: A Political and Military History*, Cambridge: Cambridge University Press, 2018.

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

- ・平常点（授業中における報告）及び学期末に課すレポート（授業で学んだ内容を活用した研究報告書）によって評価する。
- ・講義中での報告担当者が担当回を無断で欠席した場合、その者は原則として単位認定の対象としない。
- ・学期末に課すレポートは、一般的な学術論文の形式に則って作成することが求められる。

授業科目名： 西洋歴史論演習(古代・中世の社会)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：南雲泰輔 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 西洋史学専門演習（古代・中世の社会）では、西洋古代史及び西洋中世史における社会とそれに関連する事項を扱った欧米学界における優れた研究成果の摂取を通じて、関連学説の検討を踏まえた問題設定及び課題を解決するための史料批判を的確に行う力を涵養し、また、史資料の読解力を向上させるとともに、日本語による表現力をも彫琢することを目指す。			
授業の概要 本授業では、西洋古代と西洋中世にまたがる新たな時代区分として、現在の学界において広く認知されるようになった「古代末期（Late Antiquity）」について、その社会の様相を、最新の成果に基づき日常生活の観点から解説した定評ある概説書、クリスティナ・セッサ著『古代末期の日常生活』（Kristina Sessa, <i>Daily Life in Late Antiquity</i> , Cambridge: Cambridge University Press, 2018.）を取り上げ、注記も含めて精読するとともに、その内容について出席者全員で検討を行なう。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：「序章 後期ローマ帝国時代の日常生活について研究すること」の精読及び内容の検討 第3回：「第1章 田園生活」の精読及び内容の検討 第4回：「第2章 都市生活」前半の精読及び内容の検討 第5回：「第2章 都市生活」後半の精読及び内容の検討 第6回：「第3章 家庭」前半の精読及び内容の検討 第7回：「第3章 家庭」後半の精読及び内容の検討 第8回：「第4章 日々の生活のなかの国家」前半の精読及び内容の検討 第9回：「第4章 日々の生活のなかの国家」後半の精読及び内容の検討 第10回：「第5章 身体と精神」前半の精読及び内容の検討 第11回：「第5章 身体と精神」後半の精読及び内容の検討 第12回：「第6章 日常生活のなかの宗教」前半の精読及び内容の検討 第13回：「第6章 日常生活のなかの宗教」後半の精読及び内容の検討			

第14回：「補遺 後期ローマ帝国時代の時間と貨幣」の精読及び内容の検討

第15回：全体の総括

定期試験（レポート）

テキスト

Kristina Sessa, *Daily Life in Late Antiquity*, Cambridge: Cambridge University Press, 2018.

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

- ・平常点（授業中における報告）及び学期末に課すレポート（授業で学んだ内容を活用した研究報告書）によって評価する。
- ・講義中での報告担当者が担当回を無断で欠席した場合、その者は原則として単位認定の対象としない。
- ・学期末に課すレポートは、一般的な学術論文の形式に則って作成することが求められる。

授業科目名： 西洋歴史論演習(近世・近代の政治)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹中幸史 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 西洋史に関して本演習における研究テーマを設定し、先行研究の整理と問題の所在を確認した上で、具体的に分析する。史料の読解に必要な語学力の向上を図る。			
授業の概要 近年の西洋史研究の手法を学んだうえで西洋近世・近代の政治に関する文献の精読を行う。			
授業計画 第1回：講義の説明：講義の進め方に関する説明、担当者の決定など 第2回：歴史人類学の興隆（1）「構造」の超克 第3回：歴史人類学の興隆（2）複雑系への招待 第4回：感性の歴史学 なぜ、そう見えるのか？ 聞こえるのか？ 第5回：政治文化論 政治における文化、文化における政治 第6回：記憶史の挑戦認識論，言語論的転回と集合心性史 第7回：身体の歴史 岐路に立つ歴史学 第8回：テキスト精読と討論1 解説・議論、討論のまとめ 第9回：テキスト精読と討論2 解説・議論、討論のまとめ 第10回：テキスト精読と討論3 解説・議論、討論のまとめ 第11回：テキスト精読と討論4 解説・議論、討論のまとめ 第12回：テキスト精読と討論5 解説・議論、討論のまとめ 第13回：テキスト精読と討論6 解説・議論、討論のまとめ 第14回：テキスト精読と討論7 解説・議論、討論のまとめ 第15回：総括 フィードバック			
テキスト			
参考書・参考資料等 小田中直樹編『歴史学の最前線：〈批判的転回〉後のアナール学派とフランス歴史学』法政大学出版局、2017年。			
学生に対する評価			

演習の報告内容（50%）、レポート（50%）

授業科目名： 西洋歴史論演習(近世・近代の社会)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹中幸史
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各自の研究テーマを西洋社会史の観点から捉えて、先行研究の整理と問題の所在を確認した上で、具体的に分析する。史料の読解に必要な語学力の向上を図る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>西洋近世・近代の社会に関する文献の精読を下記のように行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義の説明：講義の進め方に関する説明、担当者の決定など</p> <p>第2回：政治史と社会史</p> <p>第3回：比較史の観点（日本の社会史）</p> <p>第4回：社会史の成果（フランス）</p> <p>第5回：社会史の成果（イギリス）</p> <p>第6回：社会史の成果（ドイツ）</p> <p>第7回：社会史の成果（アメリカ）</p> <p>第8回：テキスト精読と討論1 解説・議論、研究指導</p> <p>第9回：テキスト精読と討論2 解説・議論、研究指導</p> <p>第10回：テキスト精読と討論3 解説・議論、研究指導</p> <p>第11回：テキスト精読と討論4 解説・議論、研究指導</p> <p>第12回：テキスト精読と討論5 解説・議論、研究指導</p> <p>第13回：テキスト精読と討論6 解説・議論、研究指導</p> <p>第14回：テキスト精読と討論7 解説・議論、研究指導</p> <p>第15回：総括 フィードバック</p>			
テキスト			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>フランドロワ編『「アナール」とは何か』藤原書店、2003年。</p>			
学生に対する評価			

演習の報告内容（50%）、レポート（50%）

授業科目名： 比較考古論演習(政治)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木舞
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 東アジア考古学の分野において、大学院修士課程レベルの受講生各自が演習内における研究テーマを自ら見つけ、検討を重ねることをとおして、東アジア世界の実像や考古学の研究方法、とくに比較という手法の有用性について実践的に学ぶ。			
2. 考古資料のもつ可能性を理解するとともに、受講生の演習内の研究テーマに即した資料の選定と分析方法を修得する。			
3. 考古学分野に対して意欲的に取り組む姿勢を養う。			
授業の概要			
東アジア考古学の研究を希望する大学院生を主たる対象とする。受講生は演習において各自が設定する研究テーマに基づいて、担当教員の助言のもと、担当日に研究報告を行い、参加者で質疑応答を行う。また、考古資料の基礎的な分析方法のケーススタディとして、政治性の高い「モノ」の移動を取り上げ、移動によって生じるさまざまな政治的関係について受講生とともに考え、分析方法の深化をはかる。			
授業計画			
第1回：はじめに一授業の進め方ー			
第2回：事例研究（1） 殷周青銅器とその研究			
第3回：受講生による研究報告ー研究テーマの設定ー			
第4回：事例研究（2） 殷周青銅器とその機能			
第5回：受講生による研究報告ー分析資料と分析方法の提示			
第6回：事例研究（3） 殷墟青銅器の収集と分類			
第7回：事例研究（4） 殷墟青銅器の型式学的検討 第8回：受講生による研究報告ー型式論にもとづいた資料分類ー			
第9回：事例研究（5） 殷墟青銅器の組合せと儀礼のあり方			
第10回：事例研究（6） 殷墟周辺における青銅器の分布			
第11回：受講生による研究報告ー分布論にもとづいた資料比較ー			
第12回：事例研究（7） 地方型青銅器の収集と分析			
第13回：事例研究（8） 殷墟青銅器と地方型青銅器の比較			

第14回：受講生による研究報告—総括—

第15回：総括

テキスト

演習時間中に適宜プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

習時間中やその前後の時間に指示する。

学生に対する評価

業時間内の報告（50%）、最終レポート（50%）

授業科目名： 比較考古論演習(社会)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木舞
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 東アジア考古学の分野において、大学院修士課程レベルの受講生各自が演習内における研究テーマを自ら見つけ、検討を重ねることをとおして、東アジア世界の実像や考古学の研究方法、とくに比較という手法の有用性について実践的に学ぶ。			
2. 考古資料のもつ可能性を理解するとともに、受講生の演習内の研究テーマに即した資料の選定と分析方法を修得する。			
3. 考古学分野に対して意欲的に取り組む姿勢を養う。			
授業の概要			
東アジア考古学の研究を希望する大学院生を主たる対象とする。受講生は演習において各自が設定する研究テーマに基づいて、担当教員の助言のもと、担当日には研究報告を行い、参加者で質疑応答を行う。また、考古資料の基礎的な分析方法のケーススタディーとして、受講者各自が関心をもつ地域・時代に即した考古資料を取り上げ、古代社会を復元する手法を学び、方法についての理解を深める。			
授業計画			
第1回：はじめに一授業の進め方ー			
第2回：東アジア考古学の研究対象			
第3回：東アジア考古学の研究手法			
第4回：研究テーマの設定			
第5回：分析資料と分析方法の提示			
第6回：型式論にもとづく分析：研究事例			
第7回：型式論にもとづく分析：受講生による報告			
第8回：技術・技法にもとづく分析：研究事例			
第9回：技術・技法にもとづく分析：受講生による報告			
第10回：機能にもとづく分析：研究事例			
第11回：機能にもとづく分析：受講生による報告			
第12回：分布論にもとづく分析：研究事例			

第13回：分布論にもとづく分析：受講生による報告

第14回：受講生による成果報告会

第15回：まとめ－考古学による歴史復元－

テキスト

演習時間中に適宜プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

演習時間中やその前後の時間に指示する。

学生に対する評価

業時間内の報告（50%）、最終レポート（50%）

授業科目名： 先史考古論演習（遺物）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村田裕一
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none">・日本の先史考古学の分野において、受講生各自が研究テーマを自ら見つけ、テーマに基づく考古資料（遺物）の検討を重ねることを通じて、資料解釈と考古学の研究方法について実践的に学ぶ。・考古資料（遺物）の分析力のレベルアップをはかる。・考古学分野の修士論文作成にむけて研究成果を重ねる。			
授業の概要			
<p>日本の先史考古学の分野の研究を希望する大学院生（新規受講生）を主たる対象とし、研究指導を行う。受講生は、各自が設定する研究テーマに関連する対象資料（遺物）を選定し、教員の助言の下、この資料の調査と検討を進める作業を、学期を通して継続的に行い、この成果を授業の中で報告する。報告の担当日には、プリントを準備して研究報告し、その後、全員で質疑応答を行う。以上のプロセスを経て、受講生は、考古学の様々な論点を掘り下げ、報告者が採り上げる資料とその時代についての理解を深める。一方、報告者は、対象資料（遺物）の基本的な性格を検討することに重点を置き、形態変化や分布の時間的な変化といった基礎的な整理を行う。これは全9回（1～9）設定する、対象資料（遺物）の「基礎的整理の観点」に基づく検討において具体化され、受講生は対象資料（遺物）に関する諸論点について、質疑応答を行いながら理解を高め、各自の研究テーマの意義を広い視点から捉え直す。このようにして、対象資料（遺物）の本質への理解を深め、対象資料（遺物）解釈のための基礎力を増進する。</p>			
授業計画			
第1回：授業のはじめに 各自の研究テーマ設定			
第2回：今学期に検討対象とする日本の先史考古学資料（遺物）の選定とその資料に対する基礎的な整理の観点（1～9）の確認と分担の決定			
第3回：対象資料（遺物）の概要と時代背景に関する報告			
第4回：基礎的整理の観点1（遺物形態分類）からの検討			
第5回：基礎的整理の観点2（遺物形態の時期的変遷）からの検討			
第6回：基礎的整理の観点3（遺物形態の地域的偏在性）からの検討			

第7回：受講生の第1回検討成果報告（基礎：遺物形態学的視点から）

第8回：基礎的整理の観点4（材質分類）からの検討

第9回：基礎的整理の観点5（材質の時期的変遷）からの検討

第10回：基礎的整理の観点6（材質の地域的偏在性）からの検討

第11回：受講生の第2回検討成果報告（発展：形態及び材質の分布論的視点から）

第12回：基礎的整理の観点7（法量分析）からの検討

第13回：基礎的整理の観点8（初現期・盛行期の特徴）からの検討

第14回：基礎的整理の観点9（衰退期・消滅期の特徴）からの検討

第15回：受講生の第3回検討成果報告（総括：形態・材質・法量の地域的時期的な変遷から）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

泉 拓良 2009『考古学—その方法と現状』放送大学教育振興会

一瀬 和夫 2014『考古学の研究法』学生社

近藤 義郎・甘粕 健・佐原 真(編)1985『岩波講座 日本考古学〈1〉研究の方法』岩波書店

学生に対する評価

- ・演習時間内の報告（50％）と期末レポート（50％）に基づき、総合的見地から評価する。
- ・演習時間内の報告は検討成果のレベルに応じて評価し、最終レポートは検討成果のレベルと論述文作成能力に応じて評価する。
- ・欠席には事前承認を要し、緊急時のやむをえない場合には事後承認を認めるが、それ以外の欠席は認められない。

授業科目名： 先史考古論演習（遺構）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村田裕一
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none">・日本の先史考古学の分野において、受講生各自が研究テーマを自ら見つけ、テーマに基づく考古資料（遺構）の検討を重ねることを通じて、資料解釈と考古学の研究方法について実践的に学ぶ。・考古資料（遺構）の分析力のレベルアップをはかる。・考古学分野の修士論文作成にむけて研究成果を重ねる。			
授業の概要			
<p>日本の先史考古学の分野の研究を希望する大学院生（新規受講生）を主たる対象とし、研究指導を行う。受講生は、各自が設定する研究テーマに関連する対象資料（遺構）を選定し、教員の助言の下、この資料の調査と検討を進める作業を、学期を通して継続的に行い、この成果を授業の中で報告する。報告の担当日には、プリントを準備して研究報告し、その後、全員で質疑応答を行う。以上のプロセスを経て、受講生は、考古学の様々な論点を掘り下げ、報告者が採り上げる資料とその時代についての理解を深める。一方、報告者は、対象資料（遺構）の基本的な性格を検討することに重点を置き、形態変化や分布の時間的な変化といった基礎的な整理を行う。これは全9回（1～9）設定する、対象資料（遺構）の「基礎的整理の観点」に基づく検討において具体化され、受講生は対象資料（遺構）に関する諸論点について、質疑応答を行いながら理解を高め、各自の研究テーマの意義を広い視点から捉え直す。このようにして、対象資料（遺構）の本質への理解を深め、対象資料（遺構）解釈のための基礎力を増進する。</p>			
授業計画			
第1回：授業のはじめに 各自の研究テーマ設定			
第2回：今学期に検討対象とする日本の先史考古学資料（遺構）の選定とその資料に対する基礎的な整理の観点（1～9）の確認と分担の決定			
第3回：対象資料（遺構）の概要と時代背景に関する報告			
第4回：基礎的整理の観点1（遺構形態分類）からの検討			
第5回：基礎的整理の観点2（遺構形態の時期的変遷）からの検討			
第6回：基礎的整理の観点3（遺構形態の地域的偏在性）からの検討			

第7回：受講生の第1回検討成果報告（基礎：遺構形態学的視点から）
 第8回：基礎的整理の観点4（遺跡内配置パターン）からの検討
 第9回：基礎的整理の観点5（遺跡内配置の時期的変遷）からの検討
 第10回：基礎的整理の観点6（遺跡内配置の地域的特徴）からの検討
 第11回：受講生の第2回検討成果報告（発展：形態及び遺跡内配置の分布論的視点から）
 第12回：基礎的整理の観点7（法量分析）からの検討
 第13回：基礎的整理の観点8（初現期・盛行期の特徴）からの検討
 第14回：基礎的整理の観点9（衰退期・消滅期の特徴）からの検討
 第15回：受講生の第3回検討成果報告（総括：形態・遺跡内配置・法量の地域的時期的な変遷から）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

泉 拓良 2009『考古学—その方法と現状』放送大学教育振興会

一瀬 和夫 2014『考古学の研究法』学生社

近藤 義郎・甘粕 健・佐原 真(編)1985『岩波講座 日本考古学〈1〉研究の方法』岩波書店

学生に対する評価

- ・演習時間内の報告（50％）と期末レポート（50％）に基づき、総合的見地から評価する。
- ・演習時間内の報告は検討成果のレベルに応じて評価し、最終レポートは検討成果のレベルと論述文作成能力に応じて評価する。
- ・欠席には事前承認を要し、緊急時のやむをえない場合には事後承認を認めるが、それ以外の欠席は認められない。

授業科目名： 西洋哲学思想論（哲学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：脇條靖弘
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 プラトンの『パイドロス』のテーマは何か。恋（エロース）についての三つのスピーチが提示される前半部分と、真の弁論術、説得の技術が論じられる後半部の関係はどうなっているのか。プラトンがどのような問題意識をもっていたのか、またどのような時代背景がそこにあったのかを理解し、その意義を評価する。			
授業の概要 前半部の最初のリュシアスのスピーチに対して、ソクラテスの二つのスピーチはどの点で優れているのか。また、最後のソクラテスのスピーチはその前のスピーチよりも優れているのか。これらを考察することで、プラトンが説得のために真理を知る必要があると言うことは、必ずしも語る内容が真であることを含意するものではないことを理解する。講義形式の授業。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：時代背景と場面設定 第3回：リュシアスのスピーチ 第4回：ソクラテスの一つ目のスピーチ 第5回：取り消しの歌（パリノーディーア） 第6回：美のアイデアの想起 第7回：恋のパートナー 第8回：魂の不死性 第9回：本当の弁論術とは何か 第10回：ソフィストたちの「弁論技術」批判 第11回：説得の技術のための要件 第12回：イソクラテス 第13回：哲学の営みと問答法（ディアレクティケー）			

第14回：書くことと語ること

第15回：まとめと総括

定期試験

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布する。

学生に対する評価

- ・ 定期試験（資料の持ち込み可）により評価する。
- ・ 定期試験については論述文として解答を求め、講義理解度と論述文作成能力について評価する。

授業科目名： 西洋哲学思想論(倫理学)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：横田蔵人 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 倫理的問題についての哲学的観点と宗教的観点の共通点ならびに相違点を理解し、「ゆるし」と「正義」の問題について異なる複数の観点から検討することができるようになる。			
授業の概要 この授業では倫理と宗教に関わる諸問題を講義する。特に「ゆるし」と「正義」の問題について現代の英米圏の論文を紹介しつつ、批判的に検討する。また、取り扱われる文献はキリスト教の聖典である福音書のテキスト解釈を「ゆるし」の元型としてとりあげているため、典拠となったテキストについても解説・解釈を試みる時間を設ける。重要な根拠解釈謝罪を前提としない「無償の」ゆるしは倫理的に正しいものと見なされるべきなのかという論点を取り上げ、人間が傷つけあいながらも共生するとはどのようなことなのかを考えたい。教員による講義に加えて参加者には適宜、英語文献の読解を課す。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：交換的正義の概念について アリストテレスの『ニコマコス倫理学』から 第3回：ゆるしをめぐる現代哲学の議論 ハンナ・アーレント、ジャック・デリダ 第4回：Anthony Bash, <i>Just Forgiveness</i> の検討 The dilemma of forgiveness 第5回：Anthony Bash, <i>Just Forgiveness</i> の検討 Forgiveness as a gift 第6回：Anthony Bash, <i>Just Forgiveness</i> の検討 Forgiveness as letting go 第7回：Anthony Bash, <i>Just Forgiveness</i> の検討 Forgiveness as letting go in Mark's Gospel 第8回：Bashが検討している聖書のテキストの検討 (マルコ) 第9回：Anthony Bash, <i>Just Forgiveness</i> の検討 Forgiveness as letting go in Matthew's Gospel 第10回：Bashが検討している聖書のテキストの検討 (マタイ) 第11回：Anthony Bash, <i>Just Forgiveness</i> の検討 Forgiveness as letting go in Luke・Acts 第12回：Bashが検討している聖書のテキストの検討 (ルカ) 第13回：Anthony Bash, <i>Just Forgiveness</i> の検討 Forgiveness as letting go in the rest of the New Test			

第14回：Bashが検討している聖書のテキストの検討（その他の該当箇所）

第15回：議論のまとめと総括

定期試験

テキスト

Anthony Bash, *Just Forgiveness Exploring the Bible, weighing the issues*. London: SPCK, 2011

参考書・参考資料等

Anthony Bash, *Forgiveness and Christian Ethics*. Cambridge: Cambridge University Press, 2007.

学生に対する評価

- ・ 定期試験（資料の持ち込み可）により評価する。
- ・ 定期試験については論述文として解答を求め、講義理解度と論述文作成能力について評価する。

授業科目名： 日本思想論（古代中世）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：柏木寧子
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
日本倫理思想史研究に必要な素養を習得すべく、基本的研究書・研究論文を読み、根源的な問いを知り理解するとともに、とくに古代中世の諸テキストに即し、具体的・個別的な問いを立て探究する方法を実践的に学ぶ。			
授業の概要			
日本倫理思想史の基本的研究書として、たとえば佐藤正英『日本の思想とは何か―現存の倫理学』を取り上げ、授業の前半週ではその第一部「現存の根本構造」を通読し、倫理学・倫理思想史の根源的な問いの把握・理解をめざす。授業の後半週では同書第二部「伝承としての倫理思想」のいくつかの章・節をふまえつつ、そこで挙げられるテキスト（神話・和歌等）を読み、具体的・個別的な問いの設定・探究をめざす。受講生は分担して論点整理と自らの検討を発表し、それを受けて全員による議論を行う。取り上げる基本的研究書・研究論文やテキストは、受講生の関心も考慮したうえで決定する。			
授業計画			
第1回：授業とテキストについてのガイダンス			
（以下、佐藤正英『日本の思想とは何か―現存の倫理学』を取り上げる場合の計画）			
第2回：テキスト読解 第一部 現存の根本構造 第一章 無窮無辺の時・空へ			
第3回：テキスト読解 同上 第二章 外なる他である〈もの〉			
第4回：テキスト読解 同上 第三章 自である内なる〈たま〉			
第5回：テキスト読解 同上 第四章 「生」の世界 I 自己			
第6回：テキスト読解 同上 同上 II 父・母・兄弟姉妹			
第7回：テキスト読解 同上 同上 III 家郷			
第8回：テキスト読解 同上 第五章 「生」の意味			
第9回：テキスト読解（第二部 伝承としての倫理思想 第一章をふまえて）神をめぐる神話			
第10回：テキスト読解（同上 第二章をふまえて）花鳥風月をめぐる和歌			
第11回：テキスト読解（同上 同上）原郷世界をめぐる物語			
第12回：テキスト読解（同上 第三章をふまえて）菩薩をめぐる説話			

第13回：テキスト読解（同上	同上	）仏をめぐる説話
第14回：テキスト読解（同上	同上	）神仏習合をめぐる説話
第15回：テキスト読解（同上	第四章をふまえて）	武士をめぐる説話
テキスト		
佐藤正英『日本の思想とは何か―現存の倫理学』筑摩選書、筑摩書房、2014年。		
参考書・参考資料等		
必要に応じ、補助教材をプリントで配付する。		
学生に対する評価		
毎回の授業参加の姿勢、および期末レポートによって総合的に評価する。期末レポートでは受講者自らが問いを立て、論文執筆作法に則って論述する能力について評価する。		

授業科目名： 日本思想論（近世）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗原剛
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
和辻哲郎『日本倫理思想史』を読解し、その内容を解説する。日本における倫理思想史を通覧した業績として、古典的な価値をもつ同書を精読していくことにより、近世のみならず、通時的な思想史理解を深めることを、授業の到達目標とする。			
授業の概要			
和辻哲郎『日本倫理思想史』（岩波文庫、2011～2012年）を基本テキストとし、その内容を読解・解説する。ただし、半期の授業内で扱う範囲は、受講生の関心や希望を考慮して決定する。また、受講生の人数が少なく一方向的な講義形式になじまない場合は、毎回受講生に読書報告を課し、全員で批評し合いつつ教員が必要な解説を補う、という方式をとる。			
授業計画（近世の倫理思想（第五篇）を対象とした場合の計画例）			
第1回：ガイダンス			
第2回：第五篇第一章「武士的社会の再建」			
第3回：同篇第二章「戦乱の間に醸成せられた道義の観念」			
第4回：同篇第三章「キリシタンの伝道と儒教の興隆」			
第5回：同篇第四章「江戸時代前期の民間の儒学」一 中江藤樹			
第6回：同篇同章 二 山崎闇斎			
第7回：同篇同章 五 伊藤仁斎・東涯			
第8回：同篇第五章「献身の道德の伝統としての武士道」			
第9回：同篇第六章「江戸字第中期の儒学、史学、国学等における倫理思想」三 荻生徂徠			
第10回：同篇同章 六 本居宣長			
第11回：同篇第七章 町人道德と町人哲学			
第12回：同篇第八章「江戸時代末期の勤王論」二 会沢正志斎			
第13回：同篇同章 五 平田篤胤			
第14回：同篇同章 六 吉田松陰			
第15回：総括			
定期試験			

テキスト

和辻哲郎『日本倫理思想史（一）～（四）』（岩波文庫）岩波書店、2011～2012年

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

定期試験（50％）、毎回課される読書報告（レジュメ作成&口頭発表）（50％）

授業科目名： 中国哲学思想論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤裕水 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中国語で執筆された中国思想に関する論文を読解することを通じて、中国思想研究に必要な、現代中国語能力および漢文の読解能力の向上を目指し、合わせて中国思想史に関する知識と他国での中国思想の研究方法を学び、自らの中国思想史研究に資せしむ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>講義形式の授業。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーションおよび読解資料についての紹介</p> <p>第2回： 中国語論文読解 1・『周易』に関する論文読解</p> <p>第3回： 中国語論文読解 2・『周易』に関する論文解説</p> <p>第4回： 中国語論文読解 3・『尚書』に関する論文読解</p> <p>第5回： 中国語論文読解 4・『尚書』に関する論文解説</p> <p>第6回： 中国語論文読解 5・『毛詩』に関する論文読解</p> <p>第7回： 中国語論文読解 6・『毛詩』に関する論文解説</p> <p>第8回： 中国語論文読解 7・『礼記』に関する論文読解</p> <p>第9回： 中国語論文読解 8・『礼記』に関する論文解説</p> <p>第10回： 中国語論文読解 9・『周礼』に関する論文読解</p> <p>第11回： 中国語論文読解 10・『周礼』に関する論文解説</p> <p>第12回： 中国語論文読解 11・『春秋』に関する論文読解</p> <p>第13回： 中国語論文読解 12・『春秋』に関する論文解説</p> <p>第14回： 中国語論文読解 13・『春秋左氏伝』に関する論文読解と解説</p> <p>第15回： 中国語論文読解 14・『春秋公羊伝』に関する論文読解と解説</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>			

学生に対する評価

- ・ 発表内容により評価する。
- ・ 発表についてはレジュメと口頭でのプレゼンを求め、読解資料および二次文献の理解とその内容の説明能力について評価する。

授業科目名： 宗教心理学論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：DJUMALI ALAM 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 「宗教と儀礼（的行為）」をテーマとする。「宗教と儀礼」の課題について、資料的な情報を通して考えるだけでなく、実生活の諸事象から深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教」と「儀礼」とは何か、という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教と儀礼的な事象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようにすることを目指す。			
授業の概要 次のような問いを主な内容とする。「およそすべての宗教的事象には儀礼の要素が含まれ、またおよそすべての儀礼には宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか?」「宗教も儀礼も、人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないか?」「それは機能なのか、実体なのか?」「各地の宗教と儀礼はどのように、なぜ、何のために結びついているのか?」。			
授業計画 第1回：イントロダクション、宗教と芸術の課題 第2回：宗教と儀礼の結晶としての祭り 第3回：宗教と儀礼における「媒体」 第4回：アボリジニの宗教と儀礼 第5回：ロシア正教会におけるイコンをめぐる儀礼 第6回：芸術という儀礼と宗教 第7回：ケルトの宗教と儀礼 第8回：バリの宗教と儀礼 第9回：ジャワのワヤン劇をめぐる儀礼 第10回：儀礼としての古典芸能・歌舞伎と宗教 第11回：儀礼としての放浪芸と宗教性 第12回：儀礼としての現代日本のサブカルチャーとその宗教性1（アニメ・漫画ファンの世界） 第13回：儀礼としての現代日本のサブカルチャーとその宗教性2（ネットとアイドルの世界） 第14回：儀礼としての現代日本のサブカルチャーとその宗教性3（キャラクターの世界）			

第15回：総括（宗教の現れ、実体、本質）

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

上記の各テーマに沿った文献資料を必要に応じて案内、またはコピーを配布する。

学生に対する評価

- ・ 中間レポートと定期試験期間中の最終レポートをそれぞれ1回課す。最終評価は、一定の中間レポートと最終レポートの評価によって決まる。
- ・ レポートはいずれも、講義内容にかかわる知識と図式の修得、個別事例に関する課題の選択・独創性・展開、知識・図式の応用力と分析力、論述能力の観点から評価する。

授業科目名： 西洋哲学思想論演 習（哲学の歴史）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 脇條靖弘
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 古代ギリシア哲学のうち、ヘレニズム時代の哲学者について、断片資料を踏まえた上で、重要な二次文献を検討することを通じて、現代の研究状況を把握することを目標とする。さらにこれらの哲学者たちの問題意識について理解を深める。			
授業の概要 断片資料については、原典と翻訳（日本語、英語など）を併用し、ひととおり通観する。さらに、重要な二次文献については、レジュメを作成し内容のまとめを発表した上で、批判的に検討する。			
授業計画 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：懐疑主義の源：ピュロン 第 3 回：エピクロス派の基本教義（1）アトミズム 第 4 回：エピクロス派の基本教義（2）快樂主義 第 5 回：古ストア（1）ゼノン 第 6 回：古ストア（2）クレアンテス 第 7 回：古ストア（3）クリュシッポス 第 8 回：中期ストア：ポセイドニオス 第 9 回：後期ストア：セネカ 第 10 回：後期ストア：マルクス・アウレリウス 第 11 回：アカデメイア派（1）アルケシラオス 第 12 回：アカデメイア派（2）カルネアデス 第 13 回：アカデメイア派の衰退 第 14 回：ピュロン主義の再興（1）アイネシデモス 第 15 回：ピュロン主義の再興（2）セクストス・エンペイリコス			
テキスト			

特になし
参考書・参考資料等 H. Diels, W. Kranz, <i>Die Fragmente der Vorsokratiker</i> , Weidmann, Zürich, 1951
学生に対する評価 ・発表内容により評価する。 ・発表についてはレジュメと口頭でのプレゼンを求め、断片資料および二次文献の理解とその内容の説明能力について評価する。

授業科目名： 西洋哲学思想論演習（哲学の理論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：脇條靖弘 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 哲学の理論のうち、認識論についての理解と知識を得る。四つのテーマに分かれる。一つ目は、知識を定義する試み、二つ目は、知識の正当化の問題、三つ目は知覚の位置づけ、四つ目は懐疑論の問題である。それぞれについてその理論化の可能性と問題点を理解できるようになる。			
授業の概要 現代のマイノング主義には主に三つのアプローチがある。一つはグラハム・プリーストによる「可能世界による戦略」である。二つ目は、属性そのものを核属性と核外属性の二つに区別するアプローチである。三つ目は、E Zalta らによる「二重コプラ戦略」である。これは、exemplification と encode という二つの述語づけを考えるアプローチである。それぞれのアプローチを比較する。			
授業計画 第1回：イントロダクション：存在しない対象の理論 第2回：マイノング主義の歴史 第3回：「すべての対象は存在する」というドグマ 第4回：属性の区別：核属性 第5回：属性の区別：核外属性 第6回：述語付けの区別：exemplification 第7回：述語付けの区別：encoding 第8回：Zalta の対象理論 第9回：志向性の問題 第10回：「フードをかぶった男」のパラドックス 第11回：可能世界によるアプローチ 第12回：不可能世界、開放世界 第13回：マトリックス			

第 14 回：数学的対象

第 15 回：まとめと総括

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

その都度指示する。それぞれの理論について主に英語で書かれた著書、論文を読む。

学生に対する評価

- ・発表内容により評価する。
- ・発表についてはレジュメと口頭でのプレゼンを求め、資料および文献の理解とその内容の説明能力について評価する。

授業科目名： 西洋哲学思想論演習（ 倫理学の歴史）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：横田蔵人 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分			
授業の到達目標及びテーマ トマス・アクィナスの注釈を通じてアリストテレスの幸福論を読解することで、アリストテレスとトマスの幸福論の用語法を理解し、議論を適切に要約説明できるようになることをめざす。また、古代ギリシアの幸福論に対するキリスト教的解釈の是非を批判的に検討できる。			
授業の概要 この授業では、西洋の幸福論・人生の意味をめぐる議論の古典であるアリストテレスの『ニコマコス倫理学』第1巻を、トマス・アクィナスの『注解』と対比しつつ読解する。第1巻と第10巻での幸福論の再論との関係について、またキリスト教徒に特有な問題である地上における幸福と天上の至福の関係について、トマスがどのようにアリストテレスを読み込んでいるのか、丁寧に読み勧めたい。アリストテレスについては邦訳で、トマスについては英訳で検討する。参加者はテキストの論理を丁寧に追跡し、適切な要約説明を行うことが求められる。また、内容についての議論に参加することが必要とされる。			
授業計画 第1回：はじめに 第2回：目的の階層 第3回：最も善きものを対象とする学 第4回：政治学・倫理学の特性 第5回：最も善きものとは何か 第6回：三つの生活類型 第7回：普遍としての善——善のアイデア批判 第8回：人間にとっての善（幸福）の定義 第9回：幸福の特性と条件 第10回：幸福とは神的なものである 第11回：幸福と人生の転変 第12回：死者たちの幸不幸			

第13回：幸福と称賛

第14回：魂の区分と徳の区分

第15回：幸福論のまとめと第2巻以後との連関

テキスト

アリストテレス『ニコマコス倫理学』京都大学学術出版会、2002. その他

Thomas Aquinas, *Commentary on Aristotle's Nicomachean Ethics*, Dumb Ox Books, 1964.

参考書・参考資料等

アームソン『アリストテレス倫理学入門』岩波現代文庫、2004.

稲垣良典『トマス・アキナス「神学大全」』講談社選書メチエ、2009.

学生に対する評価

平常点および最終レポートで評価する。重視する点は次のとおり。

- ・ 主要な専門用語の意味を解説できること。（40％）
- ・ アリストテレスの主張とトマスの解釈を適切に要約し、口頭発表できること。（60％）

授業科目名： 西洋哲学思想論演習（ 倫理学の理論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：横田蔵人 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ 西洋倫理学理論のひとつである「義務論」の代表的な思想家である、カントの倫理学書を精読し、基本的な用語の意味を理解した上で、議論の内容を適切に要約説明できるようになることを目的とする。合わせて、カントの議論を批判的に検討できるようになることをめざす。			
授業の概要 この授業ではインマヌエル・カントの『道徳形而上学の基礎づけ』を読解する。この著作は西洋近代倫理思想を学ぶ際の基礎教養であるのみならず、現代の義務論をはじめ様々な思想潮流の出発点である。演習参加者の希望に合わせて、思想的な観点と、現代倫理学の諸問題に関連づける観点とのどちらに重点を置くかを決め、それぞれ必要な資料を提示してテキストを精読したい。両方の参加者はテキストの論理を丁寧に追跡し、適切な要約説明を行うことが求められる。また、内容についての議論に参加することが必要とされる。ドイツ語、または英・仏訳を主として用いるが、適宜邦訳を参照する。			
授業計画 第1回：はじめに 第2回：第1章（1）：カントの考える「道徳形而上学の基礎づけ」とはどのような作業か 第3回：第1章（2）：善い意志 第4回：第1章（3）：完全義務・不完全義務 第5回：第1章（4）：普遍化可能性 第6回：第2章（1）：仮言命法と定言命法 第7回：第2章（2）：定言命法の第一定式 第8回：第2章（3）：定言命法の第二・第三定式 第9回：第2章（4）：定言命法と完全義務・不完全義務 第10回：第2章（5）：定言命法と理性的存在 第11回：第2章（6）：理性と感情 第12回：第3章（1）：自律と自由 第13回：第3章（2）：道徳法則と関心			

第14回：第3章（3）：「基礎づけ」と「実践理性批判」

第15回：まとめ

テキスト

野田又男監訳『プロレゴメナ・人倫の形而上学の基礎づけ』中公クラシックス、2005.

Immanuel Kant, *Grundlegung zur Metaphysik der Sitten*, Meiner 1999.

Immanuel Kant, *Practical Philosophy*, Cambridge University Press 1999.

参考書・参考資料等

有福孝岳他『カント事典』縮刷版、弘文堂、2014.

学生に対する評価

平常点および最終レポートで評価する。重視する点は次のとおり。

- ・ 主要な専門用語の意味を解説できること。
- ・ カントの主張を適切に要約し、報告を作成できること。

授業科目名： 日本思想論演習（古代 中世・信仰）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：柏木寧子
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
主に日本倫理思想史研究を志す大学院生を対象として、古代中世の信仰関連文献（テキスト、研究論文）を精読しつつ、倫理思想史の問い・方法論について理解を深め、実践的訓練を重ね、基本的技能の習得をめざす。			
授業の概要			
主に日本倫理思想史研究を志す大学院生を対象として、各自の研究を指導する。受講生は教員と相談のうえ、広い意味で自らの研究にかかわる（自らの修士論文のテーマに直結しないとしても、学問的関心をもちうる）古代中世の信仰関連文献（テキスト、研究論文）を選び、精読・検討して担当回に報告する。担当者以外の受講生もあらかじめその文献を読んで授業に臨み、報告後の議論を全員で行う。必要に応じて仏教学・民俗学・宗教学等、隣接他分野の基本的研究論文も参照し知見を広げつつ、日本倫理思想史の問い・方法論について理解を深める。			
授業計画			
第1回：授業とテキストについてのガイダンス			
（以下、中世の神仏関係思想をテーマとして、前半週で『愚管抄』（神仏共存思想の例）、後半週で本地物（神仏習合思想の例）を取り上げる場合の計画）			
第2回：テキスト読解 『愚管抄』巻第七「今カナニテ書事」～「善悪ノサトリ分際ミナオモヒシラルゝ事ナリ」（日本古典文学大系本 pp. 319～323）			
第3回：テキスト読解 同上「今神武以後、延喜・天曆マデクダリツゝ」～「サヤウニヤト云コトハカキツケ侍ヌ」（同上 pp. 323～327）			
第4回：テキスト読解 同上「サテ（世ノ）スエザマハ」～「コノコトハリハコレニテ心エラレヌ」（同上 pp. 327～332）			
第5回：テキスト読解 同上「サテ後三条院ヒサシクヲワシマスベキニ」～「タバーズヂノ道理ト云コトノ侍ヲカキ侍リヌル也」（同上 pp. 332～343）			
第6回：テキスト読解 同上「又コトノセン一侍リケリ」～「アハレ神仏モノノ給フ世ナラバ、トイマイラセテマシ」（同上 pp. 343～350）			
第7回：先行研究読解（『愚管抄』）			

第8回：テキスト読解 『神道集』巻第一 二 宇佐八幡事
 第9回：テキスト読解 同上 巻第二 六 熊野権現事
 第10回：テキスト読解 同上 巻第九 四十九 北野天神事
 第11回：テキスト読解 室町時代物語「釈迦の本地」
 第12回：テキスト読解 同上 「阿弥陀の本地（善正太子物語）」
 第13回：テキスト読解 同上 「諏訪の本地」
 第14回：テキスト読解 説経「あいごの若」
 第15回：先行研究読解（本地物）

テキスト

- ・岡見正雄・赤松俊秀校注『愚管抄』日本古典文学大系、岩波書店、1967年。
 - ・岡見正雄・高橋喜一校注『神道集』神道大系文学編一、神道大系編纂会、1988年。
 - ・横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』第一巻・第七巻、角川書店、1978年・1983年。
 - ・松本隆信校注『御伽草子集』新潮日本古典集成、新潮社、1980年。
 - ・室木弥太郎校注『説経集』新潮日本古典集成、新潮社、1977年。
- いずれも必要な箇所をプリントで配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じ、補助教材をプリントで配付する。

学生に対する評価

毎回の授業参加の姿勢、および期末レポートによって総合的に評価する。期末レポートでは受講者自らが問いを立て、論文執筆作法に則って論述する能力について評価する。

授業科目名： 日本思想論演習（古代 中世・文芸）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：柏木寧子
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
主に日本倫理思想史研究を志す大学院生を対象として、古代中世の文芸関連文献（テキスト、研究論文）を精読しつつ、倫理思想史の問い・方法論について理解を深め、実践的訓練を重ね、基本的技能の習得をめざす。			
授業の概要			
主に日本倫理思想史研究を志す大学院生を対象として、各自の研究を指導する。受講生は教員と相談のうえ、広い意味で自らの研究にかかわる（自らの修士論文のテーマに直結しないとしても、学問的関心をもちうる）古代中世の文芸関連文献（テキスト、研究論文）を選び、精読・検討して担当回に報告する。担当者以外の受講生もあらかじめその文献を読んで授業に臨み、報告後の議論を全員で行う。必要に応じて文学・神話学・歴史学等、隣接他分野の基本的研究論文も参照し知見を広げつつ、日本倫理思想史の問い・方法論について理解を深める。			
授業計画			
第1回：授業とテキストについてのガイダンス			
（以下、『今昔物語集』の世界観をテーマとして、天竺部～本朝部の主要巻から説話を選択・精読する場合の計画）			
第2回：テキスト読解	『今昔物語集』天竺部	巻第一	仏伝（降兜率～教化）
第3回：テキスト読解	同上	巻第二・第三	仏伝（教化・救済）
第4回：テキスト読解	同上	巻第三・第四	仏伝（入滅）・仏後
第5回：テキスト読解	同上	巻第五	仏前・本生
第6回：テキスト読解	『今昔物語集』震旦部	巻第六	仏法伝来・諸仏霊驗
第7回：テキスト読解	同上	巻第九	孝養 巻第十 国史
第8回：テキスト読解	『今昔物語集』本朝部	巻第十一	仏法伝来 巻第十二 諸仏霊驗
第9回：テキスト読解	同上	巻第十三・第十四	諸経霊驗
第10回：テキスト読解	同上	巻第十五	往生 巻第十六 観音霊驗
第11回：テキスト読解	同上	巻第十七	諸菩薩霊驗 巻第十九 出家機縁
第12回：テキスト読解	同上	巻二十三・第二十四	諸技芸

第13回：テキスト読解	同上	第二十五 武士 卷二十七 霊鬼
第14回：テキスト読解	同上	卷二十九 悪行・動物
第15回：先行研究読解		

テキスト

- ・ 今野達校注『今昔物語集一』新日本古典文学大系、岩波書店、1999年。
- ・ 小峯和明校注『今昔物語集二』新日本古典文学大系、岩波書店、1999年。
- ・ 池上洵一校注『今昔物語集三』新日本古典文学大系、岩波書店、1993年。
- ・ 小峯和明校注『今昔物語集四』新日本古典文学大系、岩波書店、1994年。
- ・ 森正人校注『今昔物語集五』新日本古典文学大系、岩波書店、1996年。

いずれも必要な箇所をプリントで配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じ、補助教材をプリントで配付する。

学生に対する評価

毎回の授業参加の姿勢、および期末レポートによって総合的に評価する。期末レポートでは受講者自らが問いを立て、論文執筆作法に則って論述する能力について評価する。

授業科目名： 日本思想論演習（近世・学問）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗原剛
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
丸山眞男『忠誠と反逆—転形期日本の精神史的位相』を読む。政治思想史研究としてだけでなく、倫理思想史研究としても大いに示唆的な、丸山眞男の代表的論考を読解することにより、日本倫理思想史に関する各自の知見を広め、思索を深めることを、授業の到達目標とする。			
授業の概要			
丸山眞男『忠誠と反逆—転形期日本の精神史的位相』（ちくま学芸文庫、1998年）を基本テキストとし、表題論文をはじめとする所収の論考を、演習形式で講読する。参加者には輪番での口頭発表、および事前のレジュメ作成・提出を課すとともに、授業内での積極的な議論・発言を課す。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：「忠誠と反逆」 1 問題の限定			
第3回：「忠誠と反逆」 2 伝統概念としての忠誠と反逆			
第4回：「忠誠と反逆」 3 維新前後における忠誠の相剋			
第5回：「忠誠と反逆」 4 自由民権論における抵抗と反逆			
第6回：「忠誠と反逆」 5 信徒と臣民			
第7回：「忠誠と反逆」 6 忠誠の「集中」と反逆の集中			
第8回：「近代日本思想史における国家理性の問題」			
第9回：「福沢・岡倉・内村 —西欧化と知識人—」			
第10回：「歴史意識の「古層」」 1 基底範疇のA—なる			
第11回：「歴史意識の「古層」」 2 基底範疇のB—つぎ			
第12回：「歴史意識の「古層」」 3 基底範疇のC—いきほひ			
第13回：「歴史意識の「古層」」 4 関連と役割			
第14回：「思想史の考え方について —類型・範囲・対象—」			
第15回：総括			
定期試験			

テキスト

丸山眞男『忠誠と反逆—転形期日本の精神史的位相』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、1998年

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

定期試験（30％）、授業における発表（60％）、議論への参加度（10％）

授業科目名： 日本思想論演習（近世・文芸）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗原剛 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 井原西鶴『日本永代蔵』を、おもに倫理思想の表現として読解する。作品の中に表現された、金銭をめぐる町人たちの生きざま、社会的な規範意識、神仏に対する信仰の内実などについて、自らの見解を論理的に表現できるようになることを、授業の到達目標とする。			
授業の概要 井原西鶴による浮世草子『日本永代蔵』を、おもに倫理思想的観点から、演習形式で講読する。具体的には、その回で扱われる篇に関するレポーターの口頭発表を踏まえ、全員で討議を行う。ただし授業の進度（一回ごとに扱う篇数等）については、参加者の感触や希望に従って適宜調整する。			
授業計画（毎回の範囲を、冒頭から一篇ずつとした場合の計画例） 第1回：ガイダンス 第2回：「初午は乗つて来る仕合せ」 第3回：「二代目に破る扇の風」 第4回：「浪風静かに神通丸」 第5回：「昔は掛算今は当座銀」 第6回：「世は欲の入札に仕合せ」 第7回：「世界の借家大将」 第8回：「怪我の冬神鳴」 第9回：「才覚を笠に着る大黒」 第10回：「天狗は家名の風車」 第11回：「舟人馬方燈屋の庭」 第12回：「煎じやう常とはかはる問葉」 第13回：「国に移して風呂釜の大臣」 第14回：「世は抜取りの観音の眼」 第15回：総括 定期試験			

テキスト

谷脇理史ほか校注・訳『井原西鶴集③』（新編古典文学全集）小学館、1996年

参考書・参考資料等

麻生磯次・富士昭雄訳注『日本永代蔵』（対訳西鶴全集）明治書院、1975年

学生に対する評価

定期試験（30％）、授業における発表（60％）、議論への参加度（10％）

授業科目名： 中国哲学思想論演 習（古代中世）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤裕水 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 中国思想に関わる中国古代および中世の漢文文献の読解を通して、漢文の読解能力を高め、中国思想について自ら研究を行うことができるようになる。			
授業の概要 演習形式の授業。			
授業計画 第1回： オリエンテーションおよび読解資料についての紹介 第2回： 漢文文献読解 1『孝経注疏』 第3回： 漢文文献読解 2『論語注疏』 第4回： 漢文文献読解 3『孟子注疏』 第5回： 漢文文献読解 4『爾雅注疏』 第6回： 漢文文献読解 5『周易注疏』 第7回： 漢文文献読解 6『尚書注疏』 第8回： 漢文文献読解 7『毛詩注疏』 第9回： 漢文文献読解 8『儀礼注疏』 第10回： 漢文文献読解 9『礼記注疏』 第11回： 漢文文献読解 10『周礼注疏』 第12回： 漢文文献読解 11『春秋左氏伝注疏』 第13回： 漢文文献読解 12『春秋公羊伝注疏』 第14回： 漢文文献読解 13『春秋穀梁伝注疏』 第15回： 漢文文献読解 14『荀子集解』			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価			

- ・発表内容により評価する。
- ・発表についてはレジュメと口頭でのプレゼンを求め、読解資料および二次文献の理解とその内容の説明能力について評価する。

授業科目名： 中国哲学思想論演 習（近世）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤裕水 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 中国思想に関わる中国古代および中世の漢文文献の読解を通して、漢文の読解能力を高め、中国思想について自ら研究を行うことができるようになる。			
授業の概要 演習形式の授業。			
授業計画 第 1 回： オリエンテーションおよび読解資料についての紹介 第 2 回： 漢文文献読解 1（皮錫瑞） 第 3 回： 漢文文献読解 2（王先謙） 第 4 回： 漢文文献読解 3（段玉裁） 第 5 回： 漢文文献読解 4（陳寿祺） 第 6 回： 漢文文献読解 5（陳喬樞） 第 7 回： 漢文文献読解 6（王念孫） 第 8 回： 漢文文献読解 7（王引之） 第 9 回： 漢文文献読解 8（戴震） 第 10 回： 漢文文献読解 9（惠棟） 第 11 回： 漢文文献読解 10（江声） 第 12 回： 漢文文献読解 11（孫星衍） 第 13 回： 漢文文献読解 12（廖平） 第 14 回： 漢文文献読解 13（阮元） 第 15 回： 漢文文献読解 14（顧炎武）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価			

- ・発表内容により評価する。
- ・発表についてはレジュメと口頭でのプレゼンを求め、読解資料および二次文献の理解とその内容の説明能力について評価する。

授業科目名： 宗教心理学演習（精神分析）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：DJUMALI ALAM 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 参加者各自が修論に向けて研究したい、または関心のある宗教的な事象（または一面）を取り上げ、それに対応する、宗教学の理論的枠組みと分析的視点について一緒に考える。個々のテーマと事例は自由とするが、理論的枠組みと分析的視点に関しては、「宗教心理学」と「精神分析学」的な視点とアプローチに重点を置く。			
授業の概要 宗教は人間の生活に深く浸透し、また不可避免的に伴うものであり、その意味では、人間生活にとって根源的な機能と役割を果たしているといえる。しかし他方ではその宗教が、形骸化してしまって人々の心のダイナミズムを妨げりさまざまな心の問題の主たる要因になってしまうことがある。本授業は、こうしたジレンマに対して、宗教心理学的な視点からの探究を試みる。毎回の授業は、「教員による宗教心理学の理論・アプローチの解説」と「参加者によるプレゼンテーション、ディスカッション、指導」の二部構成からなる。			
授業計画 第1回：イントロダクション、宗教と心理の課題 第2回：宗教経験と無意識1（儀礼の世界）、プレゼンテーション 第3回：宗教経験と無意識2（シャーマニズムの世界）、プレゼンテーション 第4回：宗教経験と無意識3（日常活動の世界）、プレゼンテーション 第5回：宗教と自殺1（分類）、プレゼンテーション 第6回：宗教と自殺2（動機）、プレゼンテーション 第7回：宗教とスティグマ1（媒体）、プレゼンテーション 第8回：宗教のスティグマ2（経験）、プレゼンテーション 第9回：フロイトの宗教論1（心のメカニズム）、プレゼンテーション 第10回：フロイトの宗教論2（宗教の位置づけ）、プレゼンテーション 第11回：ユングの宗教論1（心のメカニズム）、プレゼンテーション 第12回：ユングの宗教論2（宗教の位置づけ）、プレゼンテーション 第13回：ピアジェの宗教論、プレゼンテーション			

第14回：ジェームスの宗教論、プレゼンテーション

第15回：総括（宗教と心理の関係図式）

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

上記の各テーマに沿った文献資料を必要に応じて案内、またはコピーを配布する。

学生に対する評価

- ・ 中間レポートと定期試験期間中の最終レポートをそれぞれ1回課す。最終評価は、一定の中間レポートと最終レポートの評価によって決まる。
- ・ レポートはいずれも、講義内容にかかわる知識と図式の修得、個別事例に関する課題の選択・独創性・展開、知識・図式の応用力と分析力、論述能力の観点から評価する。

授業科目名： 宗教心理学演習（認知科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：DJUMALI ALAM 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 今日の宗教学にける最重要テーマ（または視点・切り口）の一つである「偶像」を主テーマとする。「宗教と偶像」の課題について、資料的な情報を通して考えるだけでなく、個々のテーマ・事例を通し、実生活の諸事象から深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教」と「偶像」とは何か、という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教と偶像に関する事象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。			
授業の概要 宗教は人間の生活に深く浸透し、また不可避免的に伴うものであり、その意味では、人間生活にとって根源的な機能と役割を果たしているといえる。しかし他方ではその宗教が、形骸化してしまって人間の感性（心の認知メカニズム）のダイナミズムを妨げりさまざまな心や認知機能の問題を起こす要因になってしまうことがある。本授業は、こうしたジレンマに対して、宗教哲学（認知宗教学）的な視点からの探究を試みる。毎回の授業は、「教員による宗教哲学（認知宗教学）の理論・アプローチの解説」と「参加者によるプレゼンテーション、ディスカッション、指導」の二部構成からなる。			
授業計画 第1回：イントロダクション、宗教と感性・認知機能の課題 第2回：認知宗教学とは、プレゼンテーション 第3回：宗教活動における媒体、プレゼンテーション 第4回：英米の認知宗教論1（Lawson & McCauley）、プレゼンテーション 第5回：英米の認知宗教論2（Boyer）、プレゼンテーション 第6回：認知宗教学から見る儀礼1（儀礼能力）、プレゼンテーション 第7回：認知宗教学から見る儀礼2（つながりと媒体）、プレゼンテーション 第8回：認知宗教学から見る物語1（物語の構造）、プレゼンテーション 第9回：認知宗教学から見る物語2（つながりと媒体）、プレゼンテーション 第10回：認知宗教学から見る古典宗教1（認知構造）、プレゼンテーション 第11回：認知宗教学から見る古典宗教2（つながりと媒体）、プレゼンテーション			

第12回：認知宗教学から見る生活宗教1（認知構造）、プレゼンテーション

第13回：認知宗教学から見る生活宗教2（つながりと媒体）、プレゼンテーション

第14回：認知宗教学から見るサブカルチャー、プレゼンテーション

第15回：総括（宗教と心の関係図式）

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

上記の各テーマに沿った文献資料を必要に応じて案内、またはコピーを配布する。

学生に対する評価

- ・ 中間レポートと定期試験期間中の最終レポートをそれぞれ1回課す。最終評価は、一定の中間レポートと最終レポートの評価によって決まる。
- ・ レポートはいずれも、講義内容にかかわる知識と図式の修得、個別事例に関する課題の選択・独創性・展開、知識・図式の応用力と分析力、論述能力の観点から評価する。

授業科目名： 地域福祉社会学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：速水聖子 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 生活構造の概念を理解し、現代のグローバリゼーション下におけるローカルな地域社会の生活構造について考察を深める。「移動・流動型社会」としての日本の地域社会の諸相と福祉的課題について理解し、社会問題の分析の視点を養う。			
授業の概要 現代の地域社会は、従来のように農村／都市といった単純な二分法ではとらえられない複雑な様相を呈している。特に、グローバリゼーションの進展が直接日本の地域社会のあり方にも影響を与えると共に、それによる地域社会生活の構造化が多様な地域生活の経験を生み出している。本講義では、社会学における生活構造論を中心に、現代日本の地域社会を「移動・流動型社会」という視点からとらえ、その福祉的課題について考察する。			
授業計画 第1回：生活構造論の考え方と問題意識 第2回：生活構造論の系譜 第3回：都市化社会の進展と生活構造（1）移動型社会とメディア 第4回：都市化社会の進展と生活構造（2）家族とライフスタイル 第5回：都市的生活様式と生活構造 第6回：グローバリゼーションとは何か 第7回：グローバリゼーションの諸相（1）人口移動と経済活動の広がり 第8回：グローバリゼーションの諸相（2）アイデンティティと「場所」の変容 第9回：グローバリゼーション下におけるローカルな社会の変容 第10回：ローカルな地域社会と生活構造の新たな視点 第11回：移動・流動型社会としての現代社会の特質 第12回：移動・流動型社会の福祉的課題（1）資源管理と地域問題 第13回：移動・流動型社会の福祉的課題（2）コミュニティ形成と住民参加 第14回：移動・流動型社会の進展と生活構造の新たな視点 第15回：全体のまとめ			

定期試験
テキスト 特に使用しない
参考書・参考資料等 G. Delanty, 2003, <i>Community</i> , Routledge. (=2006、山之内靖・伊藤茂訳『コミュニティ』)
学生に対する評価 授業内レポート（20％）、定期試験（80％）により授業内容の理解度を総合的に評価する。

授業科目名： 道徳心理学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋征仁
				担当形態：単独
科 目		教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1. 「正義」が、しばしば社会を2つの政治的陣営に切り裂くメカニズムについて考察する。				
2. 道徳性の形成に関する認知主義と直観主義の立場の違いを理解する。				
3. 人間や人間社会の脆弱性を進化論的背景から考察する。				
授業の概要				
デュルケーム学派を標榜する社会心理学者のJ. ハイトは、人間の社会性や道徳性の起源を、霊長類の群生活という進化的適応環境に求めている。道徳的判断が認知的判断よりも、素早く、強い感情を伴って生起するのは、社会的リスクへの反応が身体化されているからに他ならないと指摘する。しかも、道徳性はモジュール的に構成され、社会成員相互の政治的対立を生み出すという。このようなハイトの主張をベースに、道徳心理学におけるパラダイム転換を理解する。				
授業計画				
第1回：授業ガイダンス				
第2回：道徳心理学の歴史1―伝達モデル				
第3回：道徳心理学の歴史2―討議モデル				
第4回：道徳の系統発生的起源				
第5回：理性と直観の関係				
第6回：自動評価システムとしての心				
第7回：自己肯定の幻想				
第8回：道徳哲学の歪曲				
第9回：道徳のモジュール性				
第10回：政治的態度と道徳性				
第11回：保守主義者の優位				
第12回：道徳における集団志向性				
第13回：群知性と宗教性				
第14回：建設的なコミュニケーションに向けて				

第15回：道徳心理学の歴史3—直観モデル

定期試験

テキスト

ジョナサン・ハイト 2014『社会はなぜ左と右に分かれるのか』紀伊國屋書店

参考書・参考資料等

有光興記・藤澤文編『モラルの心理学—理論・研究・道徳教育の実践』北大路書房

学生に対する評価

授業ごとに提出を求める課題と定期試験により評価する。前者は講義理解度を評価し、後者は論述文としての解答を求め、講義理解度と論述文作成能力について評価する。

授業科目名： 医療社会学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：桑畑洋一郎 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>医療社会学における主要理論・概念を学び、医療という一見社会科学的研究の対象になりえなさそうなものを、社会との関連性からとらえる視覚を身に着けることを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>毎回医療社会学における主要理論・概念を取り上げ、それらと現代社会における具体的な諸事象を関連付け講義を行う。なお評価は期末レポートと毎回講義後の小レポートで行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：医療社会学の基礎的立場</p> <p>第2回：医療に関わる人々の社会的役割</p> <p>第3回：病院化する社会</p> <p>第4回：病院をはじめとした、医療施設の社会的見方</p> <p>第5回：病いと障害をめぐる見方</p> <p>第6回：「当事者」をいかに理解するか</p> <p>第7回：病いと障害をめぐる当事者運動、セルフヘルプグループの存在</p> <p>第8回：スティグマとなりうる病いと障害</p> <p>第9回：逸脱と医療化</p> <p>第10回：病いと健康、障害と健常</p> <p>第11回：病いの語り</p> <p>第12回：病いと障害の当事者への支援</p> <p>第13回：パターナリズム、優生思想、感情労働</p> <p>第14回：支援はどのようになされうるか</p> <p>第15回：授業のまとめ：現代社会における医療・病い・障害をどう見るか</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。資料は講義で毎回配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>			

学生に対する評価

期末レポート（80％）と、毎回講義後提出する小レポート（20％）をもとに評価を行う。

授業科目名： 現代民俗学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷部真吾
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 民俗学の特徴や学史を知るとともに、民俗学的研究の可能性と限界を自分なりに理解する。			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、福田アジオによる2冊の文献（『日本の民俗学』および『現代日本の民俗学』）を講読することで、民俗学の特徴や学史を理解するとともに、現代日本の文化的・社会的状況を理解する上で民俗学はどの程度の有効性を有しているのかについて議論する。毎回の授業では、発表担当者に担当範囲をまとめ、発表してもらう。その後、履修者全員で議論することで、民俗学や現代日本に対する各自の理解・認識を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（講義内容の説明と民俗学の概要解説）</p> <p>第2回：第1章「近世文人の活動と民俗認識」（『日本の民俗学』）</p> <p>第3回：第2章「人類学の成立と土俗」および第3章「民俗学の萌芽」（『日本の民俗学』）</p> <p>第4回：第4章「民俗学の登場」（『日本の民俗学』）</p> <p>第5回：第5章「民俗学の確立」（『日本の民俗学』）</p> <p>第6回：第6章「戦争と民俗学」および第7章「日本の敗戦と民俗学」（『日本の民俗学』）</p> <p>第7回：第8章「日本民俗学会と民俗学研究所」（『日本の民俗学』）</p> <p>第8回：第9章「アカデミック民俗学への行程」（『日本の民俗学』）および小括</p> <p>第9回：第1章「アカデミズムのなかの民俗学」（『現代日本の民俗学』）</p> <p>第10回：第2章「批判と反省の民俗学」（『現代日本の民俗学』）</p> <p>第11回：第3章「新しい民俗学研究の形成」（『現代日本の民俗学』）</p> <p>第12回：第4章「制度の中の民俗学」（『現代日本の民俗学』）</p> <p>第13回：第5章「社会の変化と民俗学」（『現代日本の民俗学』）</p> <p>第14回：第6章「落日の民俗学と現代民俗学」（『現代日本の民俗学』）</p> <p>第15回：第7章「二一世紀の民俗学へ」（『現代日本の民俗学』）および総括</p>			
<p>テキスト</p> <p>福田アジオ2009『日本の民俗学 「野」の学問の二〇〇年』吉川弘文館</p>			

福田アジオ2014『現代日本の民俗学 ポスト柳田の五〇年』吉川弘文館

参考書・参考資料等

授業中に、適宜、指示する。

学生に対する評価

発表内容（30%）、授業への参加度（30%）、レポート内容（40%）をもとに、総合的に判断する。

授業科目名： 社会人類学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林宏至
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 本授業は15回の授業を通し、東アジアの現代民俗を理解するうえで重要な文献を読み込んでいく。社会人類学を基本的な分析視座とし、東アジア諸社会における民俗、伝承、生活、政治性、表象などについて具体的な事例を通して考察する。本授業の受講者は、本授業を通し、東アジア諸社会の多様性、各社会集団の理念モデル、文化や社会の変容と政治性について説明できるようになる。			
授業の概要 本授業は現代の東アジア社会、とりわけ中国社会を、社会人類学的な視点から考察することで、地域研究として東アジア一帯の知識を深め、現代における民俗および民俗知識のあり方を理解するものである。			
授業計画 第1回：東アジアというフィールドを文化人類学的視座からとらえる（授業の概要説明） 第2回：家族と親族Ⅰ（漢族および東アジア諸社会の父系出自について） 第3回：家族と親族Ⅱ（漢族の居住形態と房） 第4回：家族と親族Ⅲ（中国における母系出自） 第5回：家族と親族Ⅳ（漢族の名前と宗族組織） 第6回：風水と祖先祭祀（東アジア諸社会に広くみられる風水思想とその実践について） 第7回：テキストとしての族譜（歴史資料としてではなく、史実としてではなく「現地のテキスト」と向き合う） 第8回：「伝統」とヘゲモニー（われわれが「伝統」と呼ぶものの政治性について考察する） 第9回：民族と文化をめぐるポリティクス（民族の政治性、言語、表象について考察する） 第10回：華僑と僑郷（東アジア一帯に広がる華僑社会。そして華僑の故郷とされる僑郷。両者の関係を民俗知識から考察する） 第11回：景観と空間—場所論（行政的な区画は「～文化」を生み出す力を有している。河合やルフェーベルの議論から空間—場所論を理解する） 第12回：観光と開発（観光開発は景観や生業だけでなく、人々の民俗知識にも影響を与える。観光開			

発と言説について考察する)

第13回：東アジアの宴（宴は時に供犠（供養）を伴い、社会集団にとって重要な場となる。宴を通して社会集団の在り方を考える）

第14回：周辺から見た国家、政治権力（国家の周辺に位置づけられる人々の視点から国家や権力について考察する）

第15回：まとめと総合討論

テキスト

毎回配布した資料を読み込んでくることを前提とし授業を進める。

参考書・参考資料等

渡邊欣雄『漢民族の宗教—社会人類学的研究』第一書房（1991）

瀬川昌久『族譜』風響社（1996）

等、その他は授業内で適宜提示。

学生に対する評価

成績評価は演習への出席、事前準備、議論などを総合的に判断して評価する（80%）。大学院の授業なので出席は最低条件と考える。毎授業ごとにディスカッションを行い、その議論と研究姿勢をもとに成績を判定する。

演習の授業とは別に、学期末にレポートを提出する（20%）。

授業科目名： 文化人類学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：山口（加藤）睦 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 本講義は、人々の生活に目線をおいて、災害と向き合う人々の暮らしや考えを描き出す災害の人類学について学ぶことを目的とする。応用人類学のひとつである災害研究を事例として、文化人類学の方法論、理論的枠組みなどの理解を目指す。			
授業の概要 本講義では、大きく5つのテーマ（人類の災害観、祭りと災害、放射能災害、慰霊と防災教育、災害と支援）について学ぶ。文化人類学における災害研究の主要な研究成果について概観し、各地の事例や現代的事例について解説する。また、受講者自身も出身地域の災害について調べて講義内で発表する。			
授業計画 第1回：文化人類学とは何か 第2回：災害人類学とは何か 第3回：人類の災害観 第4回：調査報告 第5回：祭りと災害①新潟の事例 第6回：祭りと災害②福島の実例 第7回：調査報告 第8回：放射能災害①海外の事例 第9回：放射能災害②東日本大震災 第10回：慰霊と防災教育①長崎の事例 第11回：慰霊と防災教育②東北の事例 第12回：調査報告 第13回：災害と支援①東日本大震災 第14回：災害と支援②その他の事例 第15回：調査報告			
テキスト			

参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 毎回の授業でのディスカッション、質疑応答、発表内容（50％）、レポート（50％）

授業科目名： 社会調査法演習（質的調査法）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：速水聖子 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 質的調査の方法とデータ収集のやり方、質的調査法を用いる意義と役割、テーマの設定のしかた、データの分析方法について理解し、あわせて質的調査の実施に向けて調査のプロセスを習得する。			
授業の概要 大学院生を対象に、社会調査の中の質的調査の方法について、その特徴とデータの収集・分析を中心に学ぶ。			
授業計画 第1回：社会調査の意義と目的 第2回：質的調査の考え方とテーマの選択 第3回：質的調査の調査技法（1） フィールドワーク 第4回：質的調査の調査技法（2） 参与観察法 第5回：質的調査の調査技法（3） ワークショップ 第6回：質的調査の調査技法（4） インタビュー 第7回：質的調査の分析技法（1） ライフヒストリー分析 第8回：質的調査の分析技法（2） 会話分析 第9回：質的調査の分析技法（3） 内容分析 第10回：質的調査データの解析と方法（1） アンケート法とインタビューとの相補性 第11回：質的調査データの解析と方法（2） 既存のドキュメント、テキスト分析の方法 第12回：質的調査の実際（1） 調査の設計とデータの収集 第13回：質的調査の実際（2） データの分析とまとめ方 第14回：質的調査の応用 第15回：質的調査と調査倫理 定期試験			
テキスト 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美著			

『質的社会調査の方法 ― 他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2016
参考書・参考資料等 適宜、必要に応じて提示・配布する。
学生に対する評価 授業内レポート（20%）、定期試験（80%）により授業内容の理解度を総合的に評価する。

授業科目名： 地域福祉社会学専門 演習（コミュニティ と福祉）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：速水聖子 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 社会学・社会心理学的な都市・地域・福祉問題研究の分野に関する学術文献・先行研究についてとりあげ、これらの読解・解釈を行う。コミュニティと福祉社会の関連について理解し、テキストの読解と討議を行うことで実践的に学ぶ。			
授業の概要 社会学・社会心理学的な都市・地域・福祉問題研究の分野において研究を進めることを希望する大学院生を対象として、コミュニティの基礎的学術文献の検討を行う。テキストの読み込みと本演習内における受講生の希望する研究テーマに関する報告・討論を行い。			
授業計画 第1回：イントロダクション・文献の提示 第2回：研究テーマの選び方に関する討議 第3回：「コミュニティ思想と社会理論」総論 第4回：「コミュニティ思想と社会理論」第1章（社会的プラグマティズムと「探究者たちのコミュニティ」：デューイとミードからの前進） 第5回：「コミュニティ思想と社会理論」第2章（A. ギデンズにおけるコミュニティ論：自己実現のための共同体に向けて） 第6回：「コミュニティ思想と社会理論」第3章（惑星的都市化時代の空間と場所） 第7回：第1回中間報告・研究成果の発表 第8回：「コミュニティ思想と社会理論」第4章（個人化社会と連帯としてのコミュニティ） 第9回：「コミュニティ思想と社会理論」第5章（共同・協同の思想と福祉コミュニティ） 第10回：「コミュニティ思想と社会理論」第6章（危機とコミュニティ） 第11回：「コミュニティ思想と社会理論」第7章（グローバル化・モビリティーズ・コミュニティ：一つの視座設定） 第12回：第2回中間報告・研究成果の発表 第13回：「コミュニティ思想と社会理論」関連文献（1）福祉とコミュニティに関わる報告			

第14回：「コミュニティ思想と社会理論」関連文献（2）リスクとコミュニティに関わる報告

第15回：最終報告・学期の総括

テキスト

橋本和孝・吉原直樹・速水聖子編著、2013『コミュニティ思想と社会理論』東信堂

参考書・参考資料等

適宜、必要に応じて提示・配布する。

学生に対する評価

演習における報告（20％）と最終レポート（80％）により評価する。文献や先行研究の理解度、研究方法の妥当性、表現や記述の論理性などを総合して評価する。

授業科目名： 地域福祉社会学専門 演習（社会変動と福祉）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：速水聖子 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 社会学・社会心理学的な都市・地域・福祉問題研究の分野に関する学術文献・先行研究についてとりあげ、これらの読解・解釈を行う。地域福祉の諸相をとりあげた基礎的文献を読み込むことを通じて、修士論文執筆のための問題概念の整理や準備を行う。			
授業の概要 社会学・社会心理学的な都市・地域・福祉問題研究の分野において研究を進めることを希望する大学院生を対象として、地域福祉の諸相を取り上げた学術文献の検討を行う。加えて、受講生の希望する研究テーマに関する報告・討論を行い、当該テーマにおける論文執筆のための指導を行う。			
授業計画 第1回：イントロダクション・文献の提示 第2回：研究テーマの選び方に関する討議 第3回：先行研究についての資料収集に関する討議 第4回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第1章「個人化・連帯・福祉」 第5回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第2章「障害者の自立生活運動」 第6回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第3章「ホームレスと社会的排除」 第7回：第1回中間報告・研究成果の発表 第8回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第4章「シングル化と社会変動」 第9回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第5章「若者問題と多様な社会的包摂」 第10回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第7章「過疎地域の二重の孤立」 第11回：第2回中間報告・研究成果の発表 第12回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第9章「福祉ボランティアとNPO」 第13回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第10章「社会的企業のハイブリッド構造と社会的包摂」 第14回：藤村正之編「協働性の福祉社会学」第12章「コミュニティと社会関係資本」			

第15回：最終報告・学期の総括

テキスト

藤村正之編著 2013「協働性の福祉社会学—個人化社会の連帯」東京大学出版会
--

参考書・参考資料等

適宜、必要に応じて提示・配布する

学生に対する評価

<p>演習における報告（20％）と最終レポート（80％）により評価する。文献や先行研究の理解度、研究方法の妥当性、表現や記述の論理性などを総合して評価する。</p>
--

授業科目名： 社会調査法演習（多変 量解析）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋征仁 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 統計ソフトウェアを用いて、重回帰分析、パス解析、因子分析、ロジスティック回帰分析など の多変量解析について学習するとともに、修士論文の論文執筆に利用できる力を身に着ける。			
授業の概要 代表的な多変量解析法の考え方と利用法について、実際の調査データと統計ソフトウェアを用 いた実習により学ぶ。本演習の対象学生は、t検定や分散分析、カイ2乗検定、相関係数・単回 帰分析等の社会統計学の初歩について、すでに理解している者である。この授業ではさらに多 変量解析法の考え方と利用法の学習を推し進め、統計ソフトウェアによる解析を行うことがで きるようにする。データと分析目的に沿って適切な多変量解析法を選択し、統計ソフトウェア により出力された多変量解析の結果を適切に解釈できることが目標となる。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス 第2回：統計ソフトSPSSの操作の基本 第3回：社会調査データの分析における多変量解析——見えないものを見る魔法 第4回：多変量解析の考え方（1）——二元配置の分散分析 第5回：多変量解析の考え方（2）——カイ二乗検定からログリニア分析へ 第6回：多変量解析の考え方（3）——単回帰分析から重回帰分析へ 第7回：線形結合による潜在変数の構成——因子分析 第8回：線形結合による総合変数の構成——主成分分析 第9回：重回帰分析の展開（1）——ダミー変数と交互作用 第10回：重回帰分析の展開（2）——階層的重回帰分析 第11回：重回帰分析の展開（3）——パス解析による因果推論 第12回：離散変数を従属変数とした回帰分析（1）——二項ロジスティック回帰分析 第13回：離散変数を従属変数とした回帰分析（2）——多項・順序ロジスティック回帰分析 第14回：多変量解析を用いた論文を読み解くために 第15回：問題練習とまとめ			

テキスト

片瀬一男、阿部晃士、林雄亮、高橋征仁『社会統計学アドバンスト』ミネルヴァ書房、令和元年12月

参考書・参考資料等

片瀬一男・阿部晃士・高橋征仁著『社会統計学ベーシック』ミネルヴァ書房、平成27年9月

学生に対する評価

演習中の報告・研究発表と最終レポートに基づき評価する。演習中の報告・研究発表は、先行研究の理解度やディスカッションの展開力により評価する。最終レポートは、先行研究の理解度、テーマ設定の明確さ、オリジナリティを総合的に評価する。

授業科目名： 道徳心理学専門演習 （理論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋征仁
			担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 道徳心理学に関する学術論文について、精読し、これらを批判的に検討する能力を養成していく。また、受講生自身の研究テーマに関する研究発表もあわせて行うことで、修士論文を作成するための理論的枠組みや調査能力、研究者倫理などを洗練していく。			
授業の概要 道徳心理学を研究しようとする大学院生を主たる対象として、基礎的な学術論文の検討を行う。さらに、受講生自身の希望する研究テーマについて発表を行い、ディスカッションすることで、当該テーマに関する論文執筆に資する指導を行う。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス：先行研究の探索方法について 第2回：先行研究の分類と評価 第3回：コールバーグ「道徳性の形成」第1章「認知発達理論と心の構造」、第2章「社会化と構造」 第4回：コールバーグ「道徳性の形成」第3章「認知構造からみた社会的発達の例」 第5回：コールバーグ「道徳性の形成」第4章「認知、感情、行為」、第5章「役割取得機会」 第6回：第1回研究成果報告 第7回：コールバーグ「道徳性の形成」第6章「社会的学習研究と構造変化」 第8回：コールバーグ「道徳性の形成」第7章「社会的学習研究と内面化」、第8章「模倣」 第9回：コールバーグ「道徳性の形成」第9章「同一視」、第10章「模倣—同一視の認知構造的段階」 第10回：第2回研究成果報告 第11回：コールバーグ「道徳性の形成」第11章「内的動機づけとしての模倣、第12章「規範同調」 第12回：コールバーグ「道徳性の形成」第13章「モデルと子供」、第14章「社会的依存性と愛着」 第13回：コールバーグ「道徳性の形成」第15章「同一化の機制と精神病理」 第14回：第3回研究成果報告			

第15回：演習の総括
テキスト
L. コールバーグ「道徳性の形成—認知発達のアプローチ」新曜社1987年
参考書・参考資料等
未定（演習の中で指示する）
学生に対する評価
演習中の報告・研究発表と最終レポートに基づき評価する。演習中の報告・研究発表は、先行研究の理解度やディスカッションの展開力により評価する。最終レポートは、先行研究の理解度、テーマ設定の明確さ、オリジナリティを総合的に評価する。

授業科目名： 道徳心理学専門演習 (データ解析)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋征仁 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的事項 教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 実際の社会調査データの2次分析を行いながら、計量的論文を執筆するための具体的なノウハウを身に着ける。			
授業の概要 国際社会調査プログラムISSPのデータをもとに2次分析を行いながら、先行研究の知見を確認するとともに、問題点の指摘や新たな知見の産出を目指す。こうしたデータ分析の実際的訓練を通じて、修士論文作成に不可欠なデータ解析のノウハウを準備する。論文テーマに沿ったデータが存在している場合には、ISSPの代わりにそのデータを用いることもある。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス 第2回：ISSP（国際社会調査プログラム）のデータ説明 第3回：若者は本当に政治に無関心なのか？ 第4回：シティズンシップは涵養できるのか？ 第5回：誰が民主政治に参加しないのか？ 第6回：誰が支持する政党を持たないのか？ 第7回：誰がデモに参加するのか？ 第8回：中間考察—解析モデルの妥当性の検討 第9回：「大きな政府」か「小さな政府」か？ 第10回：自由か安全か？ 第11回：グローバルかナショナルか？ 第12回：多文化主義か同化主義か？ 第13回：まとめ—国際比較調査の注意点 第14回：受講生各自の関心に沿った分析結果の発表1 第15回：受講生各自の関心に沿った分析結果の発表2			
テキスト 田辺俊介編『民主主義の「危機」：国際比較調査からみる市民意識』勁草書房、平成26年12月			

参考書・参考資料等

片瀬一男・阿部晃士・高橋征仁著『社会統計学ベシック』ミネルヴァ書房、平成27年9月

学生に対する評価

演習中の報告・研究発表と最終レポートに基づき評価する。演習中の報告・研究発表は、先行研究の理解度やディスカッションの展開力により評価する。最終レポートは、先行研究の理解度、テーマ設定の明確さ、オリジナリティを総合的に評価する。